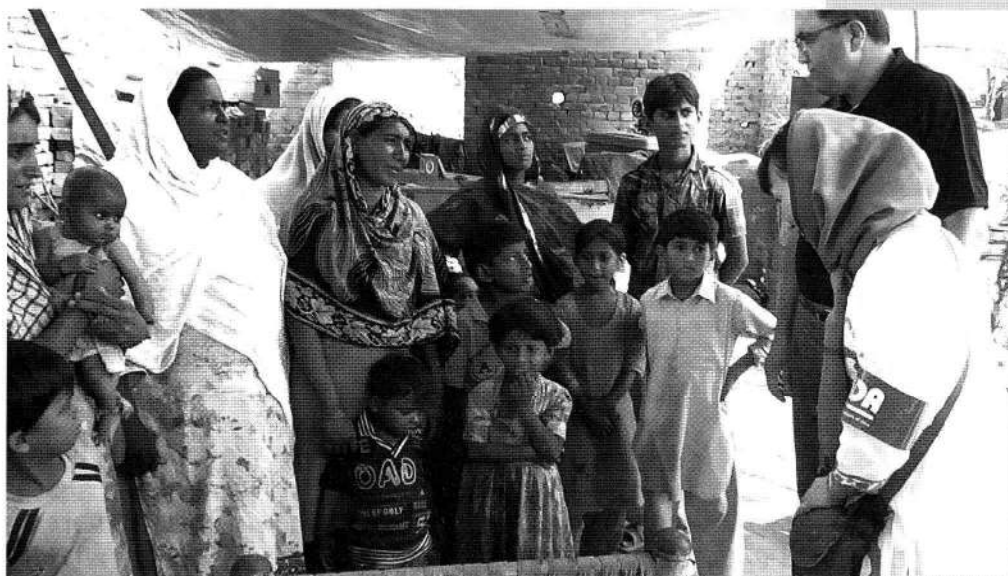


AMDA 年次報告書

2014.4.1 ~ 2015.3.31



パキスタン洪水の被災地で巡回診療の際に訪れた被災者に声掛けをする
AMDA 岩本看護師

平成 26 年度も多くのみなさまの温かいご支援により様々な事業を実施することができました。
ここに感謝とともにご報告いたします。

緊急支援活動

■ボスニア洪水被災者に対する緊急医療支援活動



戸別訪問を行う AMDA 看護師

- ◇実施場所 ボスニア・ヘルツゴビナ バニャルカ市、ドボイ市
- ◇実施期間 2014年5月21日～7月31日
- ◇派遣者 岩本智子看護師(米国ライセンス) AMDA 本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA 本部派遣者 看護師1名、AMDA ボスニア支部 医師2名、心理カウンセラー1名、医学生1名、感染症専門家2名(計7名)
- ◇受益者数 のべ168人

◇事業内容

バルカン半島でサイクロン・タマラが発生し、5月13日から3日間で3か月分の雨量をもたらした。ボスニア・ヘルツゴビナを中心とした各地で洪水被害が発生した。特に、同国では観測が始まった1894年以来最高雨量を観測し、死者24名、人口の39%にあたる150万人が被害を受けた。

このような状況の中、5月16日にAMDA ボスニア支部長から支援要請を受け、AMDA は本部より看護師1名を被災地へ派遣することを決定。5月21日に岡山から出発し、翌日、ボスニア・ヘルツゴビナ北西部に位置するバニャルカに到着。AMDA ボスニア支部関係者と合流し、支援活動を行った。

28日からは高齢者や、障害があるため支援物資を配布場所まで取りにいけない被災者の家を訪問し、健康チェックと支援物資配布を行った。また、内戦の影響で心的外傷後ストレス障害(PTSD)を患う人が今回の洪水により症状が悪化している可能性があるとして必要な人々にカウンセリングを実施し、支援物資(お米、パスタ、調味料、野菜、果物などの食糧と歯ブラシ、石鹸、スポンジなどの衛生用品)の配布も行うことができた。

支援のニーズが高かったことから、6月から7月末まで、AMDA ボスニア支部の医師や関係者が中心となり、引き続き被害の大きかったドボイ、サマックを中心に戸別訪問による洪水被災者への健康チェック、食糧や医薬品配布、遠隔精神カウンセリン

グなどの支援活動を継続した。

これらの活動を合わせて、のべ168人の被災者に対して支援を行うことができた。

なおボスニアでの活動は、96年から99年にかけて実施した旧ユーゴスラビア難民支援活動以来となった。

◇受益者の声

義足で生活しており支援物資をとりに行くことが難しい。自分たちの事に関心を持ち、支援してもらい本当にありがたい。

◇現地協力機関

AMDA ボスニア支部

■中国雲南省地震に対する緊急救援活動



支援会議の様子

- ◇実施場所 中国雲南省
- ◇実施期間 2014年8月5日～8月11日
- ◇派遣者 岩本智子看護師(米国ライセンス) AMDA 本部職員 山崎 希 看護師 AMDA 本部職員 山田 立夫 調整員 AMDA 参与
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA 本部派遣者看護師2名、調整員1名および四川省人民対外友好協会関係者、雲南省人民対外友好協会関係者3名(計6名)

◇事業内容

8月3日、現地時間午後4:30に中国南西部の雲南省昭通市魯甸県(うなんしゅう・しょうつうし・ろでんけん)を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生した。

現地メディアによると、この地震による死者は617名、負傷者は3,142名、被災者は98万人に上り、全壊家屋は約12,000棟、さらに30,000棟がダメージを受けた。この状況を受け、AMDA は8月5日に医療チームを派遣。一行は、四川省成都に入り、現地協力団体の四川省人民対外友好協会のメンバーと合流し、支援の可能性を検討した。

四川省人民対外友好協会の紹介で、8月7日には雲南省昆明市に入り、雲南省人民対外友好協会に協力を仰ぎ、支援活動について協議を重ねた。今回震源地となり、被害が報告されている魯甸県は山岳地帯であり、普段から雨の多い地域。今回の地震の余震に加え、雨の影響で、あちこちで土砂崩れが起こり道路は寸断され、車でさえアクセスが難しく、被災者も徒歩で搬送し

ている状況が続いている。今後も土砂災害など2次災害の危険が高く、現地に入るのは難しいという情報があり、さらに政府が被災地への出入りを厳重に管理しているため、NGO としての支援が困難であることから被災地での活動を断念せざるを得なかった。また現地の協力機関を通じての物資支援の可能性も探ったものの、具体的な支援については見送る結果となった。

しかしながら、今回の現地での情報収集および会議などを通じて、現地での協力関係構築を強化することができた。さらに雲南省第一人民病院を訪問も実現し、現地の医療関係者と打ち合わせを行い、今後起こりうる災害に備えた支援体制づくりを行うことができた。

◇現地協力機関

四川省人民対外友好協会
雲南省人民対外友好協会

■福知山洪水被災者に対する緊急医療支援活動



被災者に鍼灸治療を行う様子

- ◇実施場所 京都府福知山市
- ◇実施期間 2014年8月18日
- ◇派遣者 今井賢治 鍼灸師 AMDA ER ネットワークメンバー 山崎 梨枝 看護師 AMDA 本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA 派遣者(看護師1人、鍼灸師1人)(計2名)
- ◇受益者数 のべ5人

◇事業内容

2014年8月17日に発生した豪雨により京都府福知山市街地が洪水に見舞われ、4500棟の家屋浸水、道路や線路の冠水など甚大な被害が発生した。このような状況を受け、AMDA では、医療チームの派遣を決定。浸水被害の片づけによる心身疲労した被災者の現状を鑑み、看護師と鍼灸師を現地に派遣した。

被災地までの陸路は浸水や土砂崩れなどで通行止めとなっており、迂回を繰り返しての到着となった。浸水被害のあったエリアではおおむね水は引いていたものの、家屋に泥が上がり、人々は土砂の片づけなどに追われていた。

AMDA 医療チームは浸水被害地域にある保育園に入り、被災者に対して鍼灸治療を実施した。治療前の問診では、肩や背中、

腰などの痛みを訴える患者がいた。

問診の際に災害発生時の様子を聞くことができた。それによると災害発生時は休園日だったので、園児への被害がなくてよかったが、園に来てみると大人の膝丈まで浸水していた。あわててスタッフで書類や本、文具、布団等、運べるものは2階へ避難させたが、動かしきれない大きな電化製品や家具、遊具などは浸水被害に合い、廃棄処分せざる負えない状況になってしまったという。

カウンセリングとともに鍼灸治療を行うことで、被災者から等の前向きな発言が聞かれ、慣れない作業からくる筋肉痛や疲労感を和らげることができた。

◇受益者の声

体が楽になった。痛みがとれた。気持ちを切り替えて頑張ろうという思いになった。

■広島土砂災害 緊急医療支援活動



支援物資を運びこむ AMDAM 看護師

◇実施場所 広島県広島市

◇実施期間 2014年8月21日～9月18日

◇派遣者 山河城春 看護師 AMDAM ER ネットワークメンバー

武田未央 看護師 AMDAM ER ネットワークメンバー

今井賢治 鍼灸師 AMDAM ER ネットワークメンバー

山崎 梨枝 看護師 AMDAM 本部職員
中川 雅人 調整員 AMDAM 本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
AMDAM 派遣者(看護師3人、鍼灸師1人、調整員1人)および現地協力者(石沢睦夫氏ほか)、岡山県総社市役所職員のべ7名(計13名)

◇受益者数 597人

◇事業内容

2014年8月20日午前3時20分から40分にかけて、局地的大雨によって安佐北区可部、安佐南区八木・山本・緑井などの住宅地後背の山が崩れ、同時多発的に大規模な土石流が発生した。夜が明けて明らかになった被害状況は4000棟以上の浸水被害と死者・行方不明者合わせ74人であった。

この状況を受け、総社市とAMDAMグループとの多文化共生に関する協定に基づき、総社市、AMDAMの合同緊急支援活動を実

施することが決定。災害発生の日と21日のべ2回にわたり合同チームを派遣し、支援活動を実施した。

被災地では、避難所における支援物資の配布と健康調査を実施。公的な避難所でない公民館なども避難所となっており、支援物資が行き渡っていなかったことから、食糧や生活支援物資の提供を行った。

さらに、避難所でのヒヤリングを行った結果、自宅の片づけや泥かきなどを毎日行い心身ともに疲労しているという訴えや突然の災害による精神的なショック、不眠を訴える被災者が多かった。

このような状況があったことから、AMDAMでは心身の健康回復に効果のある鍼灸治療の支援活動を決定し、鍼灸治療と同時に医薬品の提供を行った。

ローカルイニシアチブ(現地主導)を尊重し、AMDAM鍼灸師は、地元の広島県鍼灸マッサージ師会と、広島県鍼灸師会の後方支援をする形で避難所生活を余儀なくされた被災者に対する鍼灸治療活動を行った。さらに被災地で活動するボランティアのための救護所の運営に支援が必要という声が上がったことから、看護師1名を派遣し、現地の医療スタッフと連携を取りながら支援活動にあたった。

◇受益者の声

避難所生活はとてもストレスなので、こういう鍼灸治療をしてもらえると、本当に気持ちいい。痛みが和らぐ。

◇現地協力機関

広島県鍼灸マッサージ師会

広島県鍼灸師会

現地協力者(石沢睦夫氏)ほか

■パキスタン・インド北部洪水 緊急医療支援活動

◇実施場所 インド・ジャムーン&カシミール地方、パキスタン・プンジャブ州

◇実施期間 2014年9月17日～10月11日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
パキスタン:AMDAM派遣者(看護師1人)およびNRSP(National Rural Support Programme)メンバー(計62名)、インド:AMDAM派遣者(看護師1人)およびパンニャ・メッタ・サンガメンバー、カシミール福祉センタースタッフほか(計5名)

◇受益者数 パキスタン3625人
インド202人

◇事業内容

2014年9月4日、モンスーンによる大雨の影響で、パキスタンとインドの国境周辺地域を中心に大規模な洪水が発生。パキスタンでは死者367名、被災者は250万人を超え、インドではジャムーン・カシミール地方を中心に298名が死亡、27.5万人以上が被災した。この状況を受け、AMDAMでは現地NPOの協力を得て、パキスタン・インド側両方で、緊急救援活動を展開した。

【パキスタン・プンジャブ州】

9月17日に現地入りしたAMDAM看護師は、地元協力団体と支援活動を開始した。プンジャブ州チニョット県サンバル郡では地元医師、看護師らの協力のもと、無料巡回診療を実施した。元々、医師不足の地域であり、衛生状態もよくないため医療ニーズは非常に高く、2日間の活動を通してのべ710人を診察することが出来た。上気道感染症の患者が多く、小児患者では下痢の症状を訴えるケースもみられた。さらに10月8日から10日にかけてハフィザバード県にて、テント用資材としてのブルーシートと竹4本など支援物資の提供と無料巡回診療を実施した。この巡回診療では246人の診察ができ、皮膚感染、筋肉痛、マラリア、腸チフスなどの患者が多く見られた。現地協力団体により、10月23日まで継続的に被災者に対する巡回診療が実施された。



巡回診療を行う AMDAM 医療チーム

【インド・カシミール】

9月25日に日本を出発したAMDAM看護師は、現地協力団体と合流後、翌26日にカシミール地方に到着した。

最も被害の大きかったスリナガルの町では、街の50パーセントが水没し、病院や学校、公共施設も甚大な被害を受け、洪水から3週間以上が経過しても、復旧の目途が立たない状況だった。

パンニャ・メッタ・サンガとAMDAMの協働チームは、被害の大きかったパタン町、ゴプラン村での支援を決定。これから冬を迎えるこの地域の被災者に対し、毛布を配布した。さらに準備した医薬品を使い、訪問診療活動を実施した。長時間洪水に浸かっていたことが原因で、呼吸器感染症が多くみられ、高齢者の間では体の痛みに関する訴えが多く聞かれた。また残った支援物資と医薬品は、パタン町の役場に寄贈することができた。



巡回診療を行う AMDAM 医療チーム

◆裨益者の声

「わざわざ日本から来てくれてありがとう。これは、アッラーの思し召し。」「普段、医療サービスをあまり受ける機会がなく、このような医療支援はありがたい。」

◆現地協力機関

パキスタン：NRSP(National Rural Support Programme)

インド：パンニャ・メッタ・サンガ、カシミール福祉センター

■スリランカ中南部地滑り緊急医療支援活動



避難所になったブーナガラ高校

◆実施場所 スリランカ・ウバ州パドゥラ

◆実施期間 2014年11月2日～11月8日

◆派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ
調整員 AMDA 本部職員

◆現地での参加者を含めた事業チーム構成
AMDA 派遣者(調整員1人)および
AMDA スリランカ支部、NGO サルボダヤ
メンバーなど(計3名)

◆受益者数 100人

◆事業内容

2014年10月29日、スリランカの最大都市であるコロンボから東に約200kmに位置するウバ州パドゥラ郡で、土砂災害が発生した。この土砂崩れは、モンスーンによる大雨が続いた影響によるもので、16人の死亡が確認され、約200人が行方不明と報告されている。

この情報を受け、AMDA 本部は11月2日に岡山から調整員を現地に派遣した。コロンボに到着したAMDA 調整員は、AMDA スリランカ支部、地元のNPOで、協力団体であるサルボダヤと情報共有を行った。11月4日には、パドゥラ郡で避難所となっていたブーナガラ高校を訪れ、この避難所のコーディネータで、パドゥラ郡健康保健局の医師でもあるAMDAの協力者と合流し、支援活動を行った。この避難所には、約1000人が避難しており、そのうちの約400人(内65人は子ども)が土砂により自宅を失った被災者で、そのほかにも約600人が二次被害を避けるために避難してきた人々だった。他にもこの避難所の近くには避難所が2つあり、それぞれ300人と150人を収容していた。避難所では、食料、衣類、医薬品など生活物品は十分に供給されていたが、乳幼児の離乳食

や育児に必要な物品として乳児用の食器などが不足していることがわかった。パドゥラ郡健康保健局の協力者からの要求もあったことから、AMDAはこの避難所に100人分の離乳食と食器を購入し支給した。

この避難所には医師が24時間対応している診療所が設けられており、呼吸器疾患、外傷などの症状を抱えた患者を1日約100人診察していた。この避難所に対しAMDA協力団体のサルボダヤは、患者を診療所から地元の病院に移送する際の、安全で信頼性の高い移送手段を提供するため救急車を支給した。そして、この救急車を有効に活用してもらうため、AMDAはガソリン代として1日4000ルピーを8日間に渡って支援した。救急車は避難所にある診療所と地元の病院の間を何度も往復し、1日約150kmの距離を走行し、有効に使われていることが確認できた。

◆現地協力機関

AMDA スリランカ支部

NGO サルボダヤ(Sarvodaya)

■東南アジア洪水被災者に対する緊急医療支援活動

◆実施場所 マレーシアクランタン州、パハン州を含む

フィリピン レイテ島 タクロバン市

◆実施期間 2015年1月1日～2015年1月11日

◆現地協力機関

◆派遣者 大政朋子 調整員 AMDA 本部職員、柴田幸江 看護師 AMDA E R ネットワークメンバー

◆現地での参加者を含めた事業チーム構成
マレーシア:AMDA 派遣者(看護師1人、調整員1人)およびマーシーマレーシアメンバー(計15名) フィリピン:AMDA 派遣者(看護師1人、調整員1人)およびレイテ医師会メンバー(計26名)

◆受益者数 マレーシア約240人、フィリピン約3000人

◆事業内容

2014年12月末に東南アジアで発生した低気圧は、マレーシア・インドネシア・タイなど広範囲に大雨・洪水の被害をもたらした。AMDA GPSP 事務所を置くマレーシアでは半島東海岸の5州16市町村という広範囲に被害が及び、死者16人、被災世帯11311世帯、避難者数約16万人となった。さらに、12月29日には、この低気圧がフィリピン諸島南部上空で台風23号へと発達し、フィリピン中南部に洪水・土砂崩れなど大きな被害をもたらした。フィリピンでは11万世帯55万人以上が被災し、死者65人、負傷者41人と大きな被害が報告された。

この状況を受けAMDAではマレーシア、フィリピンの2国で支援活動を実施した。

【マレーシア クアラクライ郡など】



巡回診療を行う医療チーム

2015年1月1日に調整員1人、看護師1人が岡山を出発し、被災地に向かった。マレーシアで地元協力団体と合流し、事前のニーズ調査をするために、1月3日には被災地クアラクライ郡ベコック村とトゥアラン村へ陸路に向かった。水は引いていたものの、町は泥に覆われており、さらに泥が乾燥し、砂埃が舞うなかでの支援活動となった。ニーズ調査の結果から、掃除を行うための道具が必要と判断し、手押し車、シャベル、デッキブラシ2種類、水きり、ほうき、マスク、軍手、バケツを1セットとした掃除セットを30世帯に配布した。翌、4日には、トゥンパッ郡コクパシール村で巡回診療を実施した。113人の診察を行った。皮膚疾患、腰痛、高血圧症などの症状が多くみられた。

【フィリピン タクロバン市】

マレーシアでの活動に次いでAMDA医療チームは、1月7日マレーシア・クアラルンプールを出発し、8日にはフィリピン・マニラを經由し、レイテ島タクロバン市に到着した。

AMDA医療チームは、現地の協力団体であるレイテ医師会と合流。被害状況や活動予定についてのミーティングを行い、医薬品や支援物資の購入、パッキングなど支援活動の準備を行った。

10日には、被害が大きく、支援があまり届いていないタクロバン市アピトン地区で、レイテ医師会の医師、研修医、薬剤師等計26人体制で巡回診療を実施し、416人の診療を行った。主な疾患は、発熱や咳などを伴う上気道感染症や皮膚疾患だった。巡回診療と同時に、米2キロ、缶詰2ケを1セットとし、同地区の500世帯に配布し、活動を終えた



巡回診療を行う医療チーム

◇現地協力機関

マーシーマレーシア
フィリピン・レイテ医師会

■大洋州サイクロン 緊急医療支援活動



支援物資を手渡す AMDA 調整員

- ◇実施場所 ツバル、フィジー共和国
- ◇実施期間 2015年3月18日～現在
- ◇派遣者 大政朋子 調整員 AMDA 本部職員、山崎希 看護師 AMDA 本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA 派遣者(看護師1人、調整員1人) および現地協力団体メンバーほか(計8名)
- ◇受益者数 175人

◇事業内容

2015年3月11日から13日にかけて大型サイクロン「パム」が大洋州のパヌアツ、キリバス共和国、パプアニューギニア独立国、ソロモン諸島、ツバル共和国などの国々で強風や豪雨被害に見舞われた。また地球温暖化により日常的に潮位が高く高潮の被害も発生した。

このような状況を受け、AMDA では地元関係機関と連携を取りながら現地の情報収集を開始。3月18日にはAMDA 看護師1名が岡山を出発し、クアラランプールで調整員1名と合流して、オーストラリア経由で20日にフィジーに到着した。被災のため各島々を結ぶ交通網が混乱しており、さらには通信状況も不安定で情報収集が困難であったため、被災地に近く、大洋州のアクセス拠点でもあるフィジーで最新の情報収集を行い、必要な支援物資の購入などを行った。

フィジーでの情報収集の結果、国家非常事態宣言が出されていたツバルでの支援を決定。24日には調整員1名がツバルに移動し、現地協力団体のスタッフと共に、停電が繰り返される中で支援物資の運搬と分別作業を行った。小さな島や環礁からなるツバルでは、チームの移動、物資の運搬などの確保が非常に難しく、また、この非常事態に対応すべく政府が浄水タブレットなどのとりまとめを行っていたことから、準備した経口補水液や浄水生成剤などの医薬品をツバルの保健省に寄贈した。また、災害対策本部には、支援が届きにくい離島の被災者に向けて、飲料水や食料品などの支援物資に充ててもらうための支援金を手

渡すことができた。なおこの災害に対するツバルでの支援活動を行った日本の団体はAMDA が唯一となる。

一方、フィジーにおいて、AMDA 看護師は、キリバスへの支援調整を行っていたが、限られた時間のなかで支援活動を実施することが困難と判断し、今期間での活動は断念し、海面上昇の影響で、今後高潮被害が頻発すると考えられることから大洋州での協力的体制づくりに尽力した。なお、現在も状況を注視しながら支援活動の継続に向けて調整中である。

◇裨益者の声

とても心強い支援です。遠い日本からわざわざ足を運んでくださり、心より感謝しています。

◇現地協力機関

ツバル NGO 協会 (TANGO)、ツバル災害対策本部、ツバル保健省ほか現地ボランティア

復興支援活動

■フィリピン・ボホール島地震復興支援活動

- ◇実施場所 フィリピン・ボホール島 マリボホック地区
- ◇実施期間 2013年11月11日～現在
- ◇派遣者 山崎希 看護師 AMDA 本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA 派遣者1人および現地協力団体メンバーなど(のべ45名)
- ◇受益者数 約6100人



寄贈した医療機器とともに

◇事業内容

2013年10月15日、フィリピン・ボホール島のカルメンを震源とするマグニチュード7.1の地震が発生した。この地震による被害は、死者215名、負傷者760名、建物被害は全半壊合わせて約58,000棟のぼり、被災者は、約332万名、約67万世帯となった。

AMDA では22日から医療チームを派遣し、医療支援活動を実施。さらに2013年11月、12月には復興支援活動として支援物資の提供などを行った。

マリボホック町では、学校や保健施設などの公共施設を含む多くの建物が被害を受

けた。政府からの支援は、ほとんど届かないのが現状で、各地方自治体・有志・個人レベルで、必死に再建に取り組んでいる状態が確認できたことから、地震による建物の倒壊で、保健施設がなくなってしまった地域で、地域住民の第一次医療を担う施設としての「ヘルステーション」の建設を決定。地震によって倒壊した場所から安全が確認できた場所に建設地を移し、トイレなどを備えたコンクリート造りの平屋の建物を建設中である。

さらに、このヘルステーションに設置する医療機器が不足していたことから、血圧計、体重計、血糖測定器、吸入器の提供も行うことができた。

◇現地協力機関

フィリピン海軍予備隊 The Naval Reserve Command (NAVRESCOM)
フィリピン海軍東ビサヤ予備隊 the Naval Force Eastern Visayas Reserve (NFEVR)、マリボホック町

■ハイチ大地震復興支援活動



歯科医療の様子

- ◇実施場所 ハイチ共和国 フォン・デ・ネグル軍病院
- ◇実施期間 2015年1月31日
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA ハイチ支部、フォンデネグ市の救世軍病院(計7名)
- ◇受益者数 57人

◇事業内容

2010年1月に発生したハイチ大地震に対して、AMDA は3か月にわたり緊急医療支援活動を実施した。その後復興支援事業として、AMDA ハイチ支部を中心に支援活動を継続している。

2015年1月31日、フォンデネグ市の救世軍病院を会場に無料歯科診療を実施した。フォン・デ・ネグル地区周辺の6か所から集まった57人を診療することができた。歯科検診、歯のクリーニング、歯科治療等を実施。活動中、歯科診療の重要性と必要性についても説明した。

なお、ハイチ大地震の復興支援事業として2011年からこれまでに義肢支援事業やスポーツ交流事業のほか裨益者を対象とした交流会などをを行っている。さらに2012年からは、年に1回ミラグワン郡フォンデネグ市の救世軍病院 (Salvation Army

Hospital)でAMDAハイチ支部が無料歯科診療を実施している。

◇受益者の声

「これからもこのような活動を継続し、多くの地域に広めていって欲しい。特に僻地で歯科医院のない場所や通院困難な場所において実施し、各自歯の状態を自己診断できるようにになって欲しい。」「去年も診てもらって、とても良い活動だと知っています。年に3回くらいあるともっとありがたいです。」

◇現地協力機関

AMDA ハイチ支部
フォンデネグ市の救世軍病院 (Salvation Army Hospital)

■東日本大震災復興支援

◇実施場所 岩手県上閉伊郡大槌町、岩手県釜石市、宮城県気仙沼市、宮城県本吉郡南三陸町、宮城県石巻市雄勝町、宮城県仙台市、福島県南相馬市ほか

◇実施期間 2011年3月12日～現在
継続中

◇派遣者 (2014.4.1～2015.3.31)
AMDA本部職員含むのべ134名ほか、
現地雇用4名(計138名)

◇受益者数 18219人

◇事業内容

2011年3月11日に発生した東日本大震災の翌日から緊急医療支援活動を実施し、4月末まで医療だけでなく多岐にわたった活動を実施した。2011年5月からは「第1次3カ年復興支援」として「医療・健康支援」「教育支援」「生活・自立支援」の3つの分野を柱として活動を継続している。2014年4月からは「第2次3カ年復興支援」被災地に残る形での支援活動を継続している。

医療・健康支援

岩手県大槌町上閉伊郡にAMDA健康サポートセンターを設置し、心身の健康支援をテーマにコミュニティスペースの開放や鍼灸治療を実施している。

コミュニティスペースでは、妊婦や子育て中の母親を対象とした交流サロンや男性を対象とした料理教室、そのほかにも体操教室や教室など住民のニーズに応えた様々なプログラムを提供している。



子育てサロン参加者の皆さんと

さらに、鍼灸治療では身体のケアに加え、患者の話を傾聴することで心身ともにケアすることにつながっている。

また、9月6、7日の2日間に渡り、第2回災害鍼灸チーム育成プログラムを実施。このプログラムは今後起こりうる災害に備えて災害鍼灸チームの育成を目的とし、今回は全国から15名が参加した。参加者は、被災した当時の状況や活動について、また鍼灸の学術的な効果や必要性について、AMDAの医療チームと活動を共にした地元の医師や鍼灸師、またAMDAの医療チームとして活動した鍼灸師らなどから、それぞれ講義を受けた。実際の患者からも、当時の様子や訪問鍼灸の効果について直接話を聞くことができた。

教育支援

これまでに引き続きAMDA東日本国際奨学金の支給を継続。岩手県立釜石高等学校、岩手県立釜石商工高等学校、岩手県立大槌高等学校、宮城県立志津川高等学校、宮城県気仙沼高等学校、仙台医健専門学校、岩手県立大船渡高等学校、東北朝鮮初中級学校の8校に在学する、将来医療従事者をめざす、各校長の推薦を受けて選定された学生を対象に支給した。2014年度は28人へ奨学金の支給を行った。これまでののべ裨益者数は281人となった。

その他にも学生の被災地でのボランティア活動の受け入れ、調整なども行った。

生活・自立支援

被災地の仮設商店街を中心とした被災地間を結ぶ事業として、「復興グルメF1大会」を2013年1月から継続している。本年は宮城県宮城郡七ヶ浜町、岩手県陸前高田市、福島県相馬市の3か所で開催された。また2015年2月には被災地間交流フォーラムが開催され、今後起こりうる「南海トラフ地震」に備えて、東日本大震災の被災地の仮設商店街の方、また南海トラフ地震で被災が予想される地域の自治体の方が一堂に会し、経験や知恵を共有し、将来に備えた具体的なディスカッションを行った。その他にも、震災ホームレスを対象とした食糧支援をNPO法人仙台夜まわりグループとともに実施した。



第2回災害鍼灸チーム養成講座の様子

◇受益者の声

震災を経験してから、より看護師になる夢を強く持ちました。皆さんの力を借りて、私も自分の夢をかなえて、人の為になる仕事をしたいです。

事をしたいです。

(AMDA 東日本国際奨学金 奨学生)

子育ての悩みなどを気軽に相談できる場がなくて、本当に住みにくいと感ずることも多いので、このような企画があると本当にうれしいです。

(大槌健康サポートセンター利用者)

大会そのものの開催以上に、それぞれの地域を超えて、この大会を通じて多くの方と交流ができ、地元のことを発信できることが何よりもうれしいです。

(復興グルメF1大会出店者)

■フィリピン台風30号復興支援活動

◇実施場所 フィリピン・レイテ島タクロバン市ほか

◇実施期間 2014年1月1日～現在

◇派遣者 岩本智子 看護師(米国ライセンス) AMDA本部職員、山崎希 看護師 AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA派遣者2人および現地協力団体メンバーほか(計410人)

◇受益者数 10454人

◇事業内容

2013年11月8日、フィリピン南部の島々に上陸した台風30号により、死者6,183人、行方不明者1,785人となる大きな被害が発生した。AMDAでは、緊急医療支援活動を2013年11月10日から実施し、2013年12月末までに、8か国、のべ25人のスタッフを被災地に派遣。レイテ島、サマル島ほか6島で医療支援活動を中心とした様々な活動を実施した。2014年1月からは復興支援活動として、被災地の協力機関と連携しながら、支援活動を継続している。

医療支援活動

レイテ医師会と合同で、2014年3月から10月まで、1ヶ月に1度の無料巡回診療を実施。半年間でのべ3605人の患者への対応ができた。成人では高血圧、上気道感染、小児では上気道感染や栄養不足などが多くみられた。そこで巡回診療に合わせて、衛生指導や石鹸、歯ブラシなどの衛生用品の配布なども行った。また、栄養指導も併せて実施し、医療を中心とした幅広い支援を実施することができた。その他にも、台湾のNGOとの医療支援活動にも参加した。



無料巡回診療の様子

同世代交流事業、文具支援

AMDAの提案により、広島県教育委員会から、広島県内の高校に呼びかけを行い、広島県内33校が募金活動に協力した。さらに、生徒の代表者が被災地を訪問し、募金活動で集まった寄付金で、文具などの支援物資を購入し、被災地タクロバン市内の高校生へ直接手渡しするとともに、「私たちは忘れていない」というメッセージを届けた。学生の帰国後は、地元団体の協力を得て、幼稚園や小中学校の子どもたちへ文具の配布を実施することができた。

アルファ米配布

パナイ島、レイテ島などで、地元団体の協力のもとアルファ米を全3300食配布した。

慰霊式典と食糧支援活動

災害発生から1年の節目に、レイテ島タクロバン市で開催された慰霊式典に参加。その他にも食糧パックを支援物資として被災した109世帯に個別配布を行った。

レイテ医師会会館拠点再建

地域のヘルスプロモーションの拠点、災害時における支援活動拠点という意味を込めて、日本医師会、福山市医師会、AMDAとの合同復興支援事業として、台風により倒壊したレイテ医師会会館再建を行った。2014年11月にくわ入れ式を行い、2015年3月には完成を迎えた。今後、本施設は医療従事者への継続教育、住民への衛生指導、無料診療などに活用される予定である。



再建されたレイテ医師会館の外観

◆受益者の声

本当に嬉しい。未だに支援を続けてくれてありがとう。

◆現地協力機関

イロイロ市ライオンズクラブ、AFP（フィリピン軍）、レイテ医師会、元レイテ州知事、タクロバン市市議、DAP（フィリピン開発アカデミー）

中長期継続事業

■ AMDA フードプログラム

◆実施場所 岡山県真庭郡新庄村、インドネシアスラウェシ島マリノ村

◆実施期間 2012年4月1日～現在

◆従事者 アロイシウス・シタミ AMDA本部職員（AFP担当）／浅田 歩 AMDA本部職員（AFP担当）／田中 俊輔 AMDA本部職員（AFP担当）（計3名）

◆受益者数 46名

◆事業内容

本事業は「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を啓発・普及することを目的とした事業で、岡山県真庭郡新庄村野土路地区にAMDA農場を開設し、あひるを使った農薬を使わない有機稲作栽培を中心とした農業を実施している。新庄村が2010年に掲げた「アジア有機農業プラットフォーム推進条例」に基づいて、連携を行っている。

【新庄村 AMDA 野土路農場】

2014年6月には2名の有機農業研修生をフィリピンソン島から招へい。6月から11月までの約6か月の滞在で、稲作の田植えから稲刈りまでを学んだ。有機農業だけでなく、新庄村をはじめとした岡山の人々との文化交流も積極的に行った。



フィリピンからの研修生活動の様子

更に2015年2月にはフィリピンのルソン島にAMDAスタッフ1名と新庄村の有機農業技術者2名を派遣。太陽熱養生処理や、わらを使った堆肥化促進方法などのワークショップを行った。その他にも現在フィリピンで実践されている有機農業について意見交換を行った。

またAMDA野土路農場で2014年度に収穫した「AMDA米・コシヒカリ」を、新庄村の特産品と併せてAMDAの支部がある11の国と地域の15駐日外国公館へ届けることができた。

【インドネシア マリノ村】

2013年12月からは野土路農場で研修を受けた技術者2名を中心に、インドネシ

アのスラウェシ島マリノ村での有機農業事業も実施している。2014年11月、12月にはそれぞれ日本から技術指導者が訪れ地元の方とのワークショップのほか、日々の農作業の方法の確認やフォローアップ指導などを実施している。



マリノ村圃場での収穫の風景

◆2014年度の主な行事

2014/6/1 フィリピン農業研修生受け入れ、2014/6/2 田植え、あひるの進水式、2014/9/30 フィリピン農業研修生研修終了、2014/10 米の収穫、2014/2/15～2014/11/13～11/17 インドネシアのマリノ村へ農業技術指導者を派遣、2015/2/20～3/1 フィリピンへ農業技術者を派遣

◆現地協力機関

新庄村
アジア有機農業連携活動推進協議会
AMDAインドネシア支部
フィリピンPRRM（フィリピン農村再建運動）

■ 2014年スリランカ医療和平プログラムII（スポーツ・文化・宗教交流）



言葉を超えてスポーツでつながる学生ら

◆実施場所 スリランカ民主社会主義共和国コロombo市 国立ユースセンター

◆実施期間 2014年8月27日～8月29日

◆派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ 調整員 AMDA本部職員／大政朋子 調整員 AMDA本部職員／山崎梨枝 看護師 AMDA本部職員

◆現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA派遣者（調整員2名、看護師1名）および倭成学園女子就学高等学校生徒15名、引率教員3名、AMDAスリランカ支部、WCRP、倭成学園女子中学高等学校、コ

ロンボ市近郊の中東教育校8校など(プログラム運営スタッフ 計8名)

◇受益者数 95人

◇事業内容

2014年8月27日～29日の3日間に渡り、スポーツ、文化、宗教を通じたスリランカと平和構築プログラムをコロンボ市内にて実施。8校から80名の中高生が参加し、15名の日本からの生徒を含め、計95名が交流を深めた。

1日目はスリランカで信仰される4つの宗教(ヒンズー教、キリスト教、イスラム教、仏教)施設を訪問し、各施設で代表者による礼拝マナーや宗教音楽について講演を受けた。普段訪れることのない他宗教施設の訪問は生徒同士が互いの宗教について紹介し合う良い機会だった。2日目は主にスポーツと音楽を通じた交流が行われた。スリランカの伝統的なスポーツ、エッレでは相対するチーム同士が一体となって応援することで盛り上がった。また生徒たちは、スリランカに古くから伝わる童謡の合唱やキャンプファイヤーを囲むでの盆踊りなどを通して交流を深めた。盆踊りには障がい児施設の子どもたちも参加し、日本の生徒の浴衣姿は大変人気だった。3日目はスリランカにおける健康教育について学んだ後、これまでの交流を通して友情が芽生えつつある生徒たちが少人数に分かれて交流する機会を設けた。生徒たちは言葉でのコミュニケーションが不十分ながらも非言語コミュニケーションツールを用いて個々に自己紹介、連絡先の交換、プレゼント交換などを行った。

閉会式では3日間を通して積極的に交流していた生徒を選出し、称賛した。また、各国の主催者や在日本大使のスピーチ、生徒の挨拶を拝聴した。生徒たちは3日間のプログラムを通して国や宗教、文化を越えて交流を図り、別れを惜しむほどに相互の理解を深め合うことが出来た。

◇現地協力機関

AMDA スリランカ支部、WCRP、コロンボ市近郊の中東教育校8校

■インド AMDAピースクリニック

◇実施場所 インド ビハール州 ブッダガヤ

◇実施期間 2009年11月～現在継続中

◇派遣者 菅波茂 医師・AMDA理事長 / 難波妙 AMDA国際部部長 / ニティアン・ヴィーラヴァーグ AMDA本部職員 / 大政朋子 調整員 AMDA本部職員 / 山崎希 看護師 AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 看護師1名、アシスタント1名、その他スタッフ1名ほか(計6人)

◇受益者数 のべ162人



妊婦の訪問健診の様子

◇事業内容

AMDA ピースクリニックは、仏教寺院に隣接しおり、海外からの観光客にアーユルヴェーダ治療を提供し、その収益を地元住民の医療サービスに還元していくことを目的とし、2009年に設立された。地域の妊婦と新生児に対するケアのニーズが非常に高いこと、また周辺地域の子供の死亡率が高いことなどから、2014年からは、アーユルヴェーダを中心とした治療活動から、母子保健に特化した医療施設としてAMDA ピースクリニックを再稼働している。

2014年10月から、地元の看護師1名とスタッフ1名、アシスタント1名の計3名で、近隣のビハールパティ村内の51世帯を訪問し、村の生活様式などを調査したうえで、看護師が村内の妊婦や乳幼児の母子に指導をしている。

11月20日には、開院5周年記念式典がおこなわれた。式典には、AMDAグループ代表のほか、AMDA本部職員、当事業信託財団関係者である地元の方たち、日蓮宗の関係者の方々など約20人が参加し、当事業の発展が祈願された。また式典の後には、地元子どもたちへ奉納されたお菓子が配られた。2015年2月にはAMDA本部職員の看護師が約1か月間、クリニックでのフォローアップ活動を行い、クリニックでの記録物や活動内容の改善を図った。

◇派遣者の声

この地域の人達のために何か力になりたい。医療者としてできることをさらに追及していきたい。(運営財団関係者)

◇現地協力機関

AMDA インド支部、AMDA ピースクリニック、日蓮宗太生山一心寺ブッダガヤ分院

■インド白内障手術事業



白内障手術を受けた患者らとともに

◇実施場所 インド マハーラーシュトラ州 ナグプール県

◇実施期間 2014年5月16日、6月20日

◇派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ 調整員 AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 宗教法人パンニャ・メッタ・サンガ(PMS)、一隅を照らす運動総本部(計6人)

◇受益者数 190人

◇事業内容

本事業は天台宗一隅を照らす運動総本部、パンニャ・メッタ学園、AMDAの3者合同支援事業である。

2014年5月16日、事前にパンニャメッタ学園で白内障の診察をうけた112人のうち手術が必要と診断された30名中14名の手術が行われた。

さらに、2014年6月20日にも白内障手術前検診を実施した。術前検診は、禪定林及びバンドラ県県庁所在地のバンドラ市との間、禪定林より北30キロバンドラ市から15キロのところにあるパヘラ村で実施。11時から15時までの間に78人が受診し、うち33人が要手術と判断された。検診では、白内障で苦しんでいる人たちの現状をうかがい知ることができた。その他、検査の結果、手術は必要ないが27人眼鏡による矯正を必要とする人がいた。さらに、受診者の中で別の眼病を患っている人が8人おり、目薬等を必要な患者に提供した。24日には、パヘラ村の所定の場所にバスが迎えに行き、2時間かけてナグプールのマハトメ眼科病院に移送。当日、14名が当日施術状態であると認定され、25、26日の二日に分けて手術を実施した。

さらに、6月のプロジェクト実施時には、地元の有志の方々が、受付用のテントの準備や、食事やお茶の準備、店の一室を暗室にして提供してくれるなど、地元の方々のこのプロジェクトに対する期待が伝わった。

◇受益者の声

手術を受けることで視力が回復した。本当に嬉しい。さらに手術を受けるにあたって、村から病院までの移動や入院費用、入院時の食事についても準備をしてもらえて本当に感謝している。

◇現地協力機関

パンニャ・メッタ・サンガ(1982年にインド政府から認定されたインドの宗教法人)、ナグプール県のマハトメ眼科病院

■スリランカ合同医療支援活動

◇実施場所 スリランカジャフナ州マルサンケルニ

◇実施期間 2014年4月5日

◇派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA調整員1人およびスリランカライオンズクラブ、ジャフナ州保健局、ポイント・

ペドロ地区保健担当官、ポイント・ペドロ・ベース病院医療スタッフなど（計15人）

◇受益者数 359人



巡回診療の様子

◇事業内容

4月5日、AMDАは、スリランカのライオンズクラブ、ジャフナ州保健局（RDHS）、ポイント・ペドロ地区の保健担当官（MOH）、ポイント・ペドロ・ベース病院の医療スタッフらの協力を得てマルサンケルニ病院で無料診療を実施した。

今回プロジェクトを実施したのは、2009年まで続いた30年に及ぶ内戦のため多大な被害を受けたスリランカの海岸沿いに位置するマルサンケルニ市内の病院。マルサンケルニ市の人口は15000人で、ほとんどの人は漁業や農業によって生計をたてており、低所得生活を強いられている。

無料診療では359人を診療。主な症状は関節痛、風邪、咳、のどの痛み、歯の痛みなどであった。患者の一人が胸の痛みを訴えていたため、急遽心電図のチェックし、救急車でジャフナ病院へと搬送をおこなった。

またポイント・ペドロ病院からは歯科医療チームも参加し、診療にきた患者に、AMDАからの支援物資である歯ブラシと歯磨き粉を配布し、正しい歯みがきの仕方も同時に指導した。さらに医療キャンプで余った医薬品は、すべてマルサンケルニ病院に提供することができた。

◇現地協力機関 スリランカライオンズクラブ、ジャフナ州保健局、ポイント・ペドロ地区保健担当官、ポイント・ペドロ・ベース病院医療スタッフなど

■スリランカ歯科検診および保健指導事業

- ◇実施場所 スリランカバドゥラ郡
- ◇実施期間 2014年4月7日
- ◇派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ AMDА本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDА調整員1人およびスリランカ・バドゥラ歯科健康保健省（計27人）
- ◇受益者数 200人

◇事業内容

AMDАはスリランカ・バドゥラ歯科健康保健省と連携して、4月7日にバドゥラの郊外にあるパルガハラワ学校で地元のクロ

ス歯科医師の指示のもと、現地の歯科医療従事者25人の協力を得て、歯科検診と保健指導を実施した。

会場となったパルガハラワ学校はバドゥラの郊外の丘陵地に位置し、生徒や先生は公共の交通機関がないため日々3kmの道のりを歩いて通っている。この地域の多くの人は農家や遊牧家という低所得層であり多くの生徒が裸足またはゴムぞうりや擦り切れた靴を身に着けていた。

生徒たちは学校の前の道に列をつくり、医療チームを歓迎した。開会式の後、朝食を生徒たちに配布し、食後に歯磨き指導を実施した。指導後は歯磨きセットを生徒に配った。また、学校に保健指導教育の教材やスポーツ用品を寄付した。

歯科検診や保健指導を行うことは学校初の試みで多くの生徒は歯科検診が初体験だった。予想通り、検診にて要治療と判断された生徒は多く、医療チームは3つに分かれて年齢に応じた歯科治療を行った。

一日がかりだったが、150人の生徒と25人の先生、低学年の生徒に付き添っていた保護者に歯科検診を行うことができた。

◇現地協力機関 スリランカ・バドゥラ歯科健康保健省、パルガハラワ学校



巡回歯科診療の様子

■スリランカ歯科検診



巡回歯科診療の様子

- ◇実施場所 スリランカバドゥラ郡
- ◇実施期間 2014年12月4日、5日
- ◇派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ AMDА本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDА調整員1人および台湾IHA（台湾国際医療支援チーム）メンバー3人、バドゥラ郡病院スタッフ16人（計20人）
- ◇受益者数 1023人
- ◇事業内容

2014年12月4日～5日、AMDАは台湾IHA（台湾国際医療支援チーム）、バドゥラ郡保健局との3者合同事業としてスリランカバドゥラ郡にて無料歯科診療を行った。

台湾IHAからは台北の仏教慈濟総合病院に所属する歯科医2人と台湾IHA職員1人が、バドゥラ郡病院から6人の歯科医と10人の歯科助手が本事業に参加した。またこの事業実施にあたり、バドゥラ郡保健局からは活動のために必要な、巡回歯科診療バスを実施期間である2日間にわたり提供された。

合同歯科チームは、コロomboから東に約200kmに位置するバドゥラ郡のパンダラウェラのプーナガラ・タミール高校とパッサラのワウケレ・タミール小学校でそれぞれ1日ずつ活動を行った。

プーナガラもワウケレも紅茶プランテーション農業がおこなわれている地域で、11月に土砂災害緊急支援活動を行った場所でもある。今回の無料歯科診療で930人の生徒が受診した。

ワウケレ・タミール小学校では、78人の児童と5人の教員、そして児童の保護者からも無料歯科診療を受けた。ワウケレ・タミール小学校の方が、歯科指導が行き届いておらず、虫歯の児童が多くみられた。

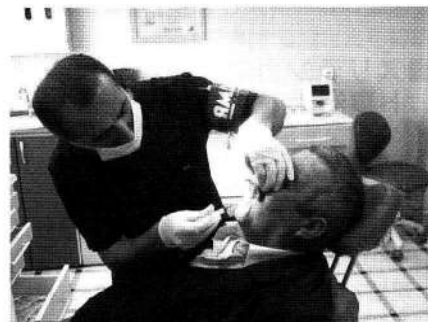
バドゥラ郡保健局の歯科医師によると、バドゥラ郡では就学児童のおよそ6割が歯科の問題を抱えている。このような深刻な状況から、バドゥラ郡保健局では学校での歯科指導に力を入れようとしている。

児童生徒らにも、歯科指導の後に歯磨き粉と歯ブラシが配布された。

◇現地協力機関 バドゥラ郡保健局、バドゥラ郡病院、プーナガラ・タミール高校、ワウケレ・タミール小学校

■トルコ合同歯科治療、衛生指導プログラム

- ◇実施場所 トルコハッカリ
- ◇実施期間 2014年11月13日～15日
- ◇派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ AMDА本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDА調整員1人および台湾IHA医療チームメンバー（計7名）
- ◇受益者数 102名



無料歯科診療の様子

◆事業内容

2014年11月、AMDAでは台湾 NGO である台湾 IHA と合同でトルコ東部の都市ハッカリで歯科医療プログラムを実施した。

AMDA は、2011年10月に発生したトルコ東部地震の支援活動後の復興支援として、ハッカリを訪れており、その際から学生との交流など支援活動を続けている。

ハッカリは都市から離れており、トルコの南東にあるイランとイラクの国境近くに位置している。報道などもなかなか入らないことから最低限の生活をしている人たちが多く住んでいる。住民の多くが羊やヤギの牧場をしており、肉と糖分の多い乳製品が主で、野菜をとらない生活をしている。またこれまでの支援活動を通じて、この地域における人々の歯の健康状態に問題があったことから、スリランカにおける白内障合同医療支援事業などで協力関係にある台湾 IHA と合同で、歯科医療プログラムを行うことを決定した。

2014年11月13日から15日までの3日間で「入れ歯の提供」と「歯科衛生教育」を実施。

入れ歯の提供は、現地歯科医とそのスタッフによって行われ、歯科衛生教育も現地の歯科技師協力の元、現地の小学校で行われた。入れ歯の提供をするにあたり、購入することができない9人が、地域の中から選ばれ、3日間にわたって、相談、歯削り、測量、かたどり、という過程を経て入れ歯を作成した。

また歯科衛生教育については、11月14日、ハッカリから車で40分の場所に位置するドウランカヤ村にある小学校で実施された。この小学校には5歳から11歳の子供93人が通っている。この小学校でこのようなプログラムがされるのは初めてで、子供たちの衛生教育のために訪れた合同医療チームにとっても感謝していた。

地元の歯科技師は、菅波奨学金を受けた看護学生と一緒に歯科衛生教育を行い、活動の最後には、一人ひとり対して歯ブラシと歯磨き粉のセットが配られた。

◆受益者の声

このような治療費を払うことはできない、再度食べ物を噛み締め、味わうことができるのは嬉しい。

◆現地協力機関

台湾 IHA ほか

■スリランカマイクロクレジット事業

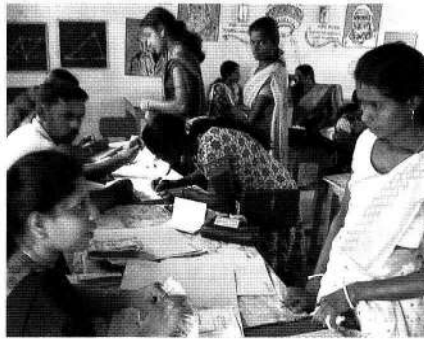
◆実施場所 ルヌガラ・ホプトン村

◆実施期間 2014年4月～現在

◆派遣者 ニティアン・ヴィーラヴァーグ
AMDA 本部職員

◆現地での参加者を含めた事業チーム構成
AMDA 調整員1人およびローズランカスタッフ(計2人)

◆受益者数 17人



融資実施のためのヒヤリングの様子

◆事業内容

2014年5月からAMDAはスリランカの団体「ローズランカ」とマイクロクレジット(小規模融資)の共同プロジェクトを開始した。

AMDAは、ローズランカがマイクロクレジット事業用に蓄積している基金に、資金を一部提供する形で協力している。

ローズランカの基金は、スリランカの茶畑が広がる山岳地方にあるルヌガラ・ホプトン村で村の学校に通う生徒の家庭に対して行われている。

多くの生徒の両親は、低賃金で茶畑の仕事に従事していることから、融資により家計が少しでも良くなることを目指している。当初このプロジェクトには47人の応募があり、現在、17人に対して融資を行っている。融資を受け取った生徒たちの両親は、生活用品販売店を始めたり、ヤギを飼育したりして、収入を増やす活動をスタートさせている。

◆受益者の声

生徒の家庭の経済状況が少しでも良くなることを希望しつつ、この融資プロジェクトの実施に深く感謝している。(ホプトン・ピグネスワラ学校長)

◆現地協力機関 ローズランカ、ホプトン・ピグネスワラ学校

■モンゴル検眼事業

◆実施場所 モンゴル ウランバートル市

◆実施期間 2013年9月8日～12日

◆派遣者 高崎裕子 医師 川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科、視能矯正専攻教授、難波妙 調整員 AMDA GPSP 支援局長

◆現地での参加者を含めた事業チーム構成
AMDA 本部職員1名、高崎医師および

ウランバートル市内の眼科医35名 学校医40名、視能訓練士専任教員1名 視能訓練士1名、検眼士4名、感覚行政学科学生3名、AMDA International 調整員1名、AMDA モンゴル(内科医1名、看護師1名、調理師2名) AMSA モンゴル(医学生)6名(計96人)

◆受益者数 373人



子どもの眼科健診の様子

◆事業内容

岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業からの助成により、2014年9月8日からの4日間、視能訓練士を派遣して子どもの目の健康に焦点をあてたセミナーや実習等を実施。モンゴルでは、小児の弱視、斜視、その他の眼科疾患の発見が遅れたり、放置されやすい現状があり、これらのことは、子どもの教育を受ける環境を阻害する恐れを孕んでいる。モンゴル眼科医協会の要望によりAMDAは2010年から毎年、日本から門家を派遣して子どもの目の健康に焦点をあてたセミナーや実習等の事業をおこなってきた。

今回は、眼科医、並びに教育関係者、保護者を対象とした小児の視機能健診の効率的実践を実際の診療現場で実施した。

眼科学校健診の研修会には、ウランバートル市内の眼科医35名と40名の学校医が参加した。また、研修会のほかに未熟児網膜症など、目に重大な問題を抱えた子ども28名の検査、さらには第58小学校に入学したばかりの1年生345名全員の眼科検診を日本モンゴル友好病院で行った。眼科学校健診の結果、両眼とも0.7以上は277名で、2割の児童は再検査の必要があった。

全体として強度近視で失明予備軍の児童1名を含め、眼科医の治療が必要と思われる児童が9名、眼鏡検査が必要な児が35名いることが判明した。

またこの検査結果については、モンゴル保健省、ウランバートル市保健局などにも共有。さらに、モンゴル眼科協会会長と、モンゴル HT テレビに出演して、広く一般に眼科視覚健診の重要性を訴えた。

日本の専門家の帰国後、モンゴル眼科協会が独自で初回の検査で問題のあった53名のうち46名の子どもたちに対して、4日間にわたって再検査を実施。その結果、38名の子どもが岡山後楽ライオンズクラブから提供されたフレームで眼鏡を作った。

◆受益者の声

日本の先生がこれほど丁寧に診てくれるとは感激だ(検査を受けた子どもの保護者) 少なくともこの53名の子どもたちは、AMDAが実施してくれた。この検診がなければ、自分たちの目に問題があることを知ることはなかった。長年にわたるAMDAの

協力に感謝している。(モンゴル眼科協会)

◇現地協力機関

モンゴル眼科協会、川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科、視能訓練士協会、City Optic (ウランバートル市内眼鏡店) アイリスツアーズ AMDA モンゴル

■カンボジア HIV/AIDS プロジェクト マラリア予防プロジェクト



世界エイズデーのイベントの様子

◇実施場所 カンボジア プノンペン、コンボンスプー州

◇実施期間 2014年4月～2015年3月 通年継続

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA カンボジア支部、プノンペン、コンボンスプー州のボランティア、ヘルスワーカー (計 561人)

◇受益者数 27,703人

◇事業内容

アムダカンボジア支部はエイズプロジェクト、マラリア予防プロジェクトの2つを柱に活動を実施している。

エイズプロジェクトでは基礎知識普及のためのパンフレットとTシャツを作成し、5大学、6高校に配布した。また世界エイズデーには「①新たなエイズ感染のゼロ ②エイズに対する差別のゼロ ③エイズ関連死のゼロ」をスローガンに活動を実施。学校を会場として、エイズの基礎知識を取り入れたクイズや歌、伝統的な人形劇などが行われた。これらの活動は、カンボジア政府の打ち出している2020年までに国内からエイズを撲滅するという目標に貢献している。活動後の評価で取り入れている参加者テストからは、参加学生が内容をよく理解していることが伺え、彼らがこれらの知識を家族や友人等に普及してくれることを願っている。

マラリア予防プロジェクトでは、地域における村落普及ボランティアとマラリア対応可能なヘルススタッフの育成、地域における健康教育普及活動、村落普及ボランティアやヘルススタッフの定期的な会議の開催、アムダスタッフによる活動の見守り、などを行った。特に健康教育では、正しい蚊帳の使用法やマラリア知識の保健指導方法、抗マラリア薬処方削減、マラリア罹患調査法などを指導した。

さらに今年は新たに4つの地域を加えて活動を行うことができた。70人の女性を含む現地協力者が活動に参加し、200の地域で実施することにつながった。

◇派遣者の声

他のマラリア予防教育を実施している団体や地域と協同してより良い活動を実施することが出来た。(AMDA カンボジアスタッフ)

■パキスタン家庭教育プログラム



聞き取り調査を行うNRSPスタッフ

◇実施場所 パキスタン・イスラム共和国

◇実施期間 2014年6月1日～2015年3月31日

◇派遣者 岩本智子 看護師(米国ライセンス) AMDA 本部職員/菅波茂 医師 AMDA グループ代表

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA 派遣者および NGO、NRSP(National Rural Support Programme)、茅ヶ崎中央ロータリークラブ (計 3人)

◇受益者数 81人

◇事業内容

2013年9月からAMDA看護師がパキスタンを訪問し、ポリオの撲滅活動に関する現地調査を行った。現地機関やNGOからの聞き取りを行った結果、健康関連、特に健康教育のプロジェクトに対する必要性が高いことがわかった。さらに教育プロジェクトを受講した未婚女性が家族や近所の人々にも習得した知識を広めることも想定されることから、2014年6月に茅ヶ崎中央ロータリークラブ、NRSP、AMDAで本プログラム実施に向けての合意文書に締結をし、プログラムがスタートした。

2014年6月26日に“パキスタン家庭教育プログラム”調印式・シンポジウムが開催されてから、AMDAは茅ヶ崎中央ロータリークラブ、NRSPと準備を進め、3者が協力して完成させた現状調査をNRSPがフィールドで実施した。

その結果、対象地区であるパキスタンシンド州タッタ地区に住む未婚女性は健康関連の知識が不足していることがわかった。そこで現状調査結果や、住民の識字率、その他の状況を考慮しながら、講師や受講生の教科書を作成し、講師の選定も行った。また、講師向け健康教育も実施した。

2015年3月からは、未婚女性に対する実際の授業が開始した。今後も茅ヶ崎中央ロータリークラブ、AMDAとNRSPは地域の健康向上を目標に協力して事業を継続していく。

◇事業パートナーからのメッセージ

未婚女性の健康教育という新しいアイデアが組み込まれたプロジェクトを実施しています。AMDAと茅ヶ崎中央ロータリークラブというパートナーがいることに感謝します。

◇現地協力機関

NRSP(National Rural Support Programme)

人材育成事業

■第4回「おかやま国際塾」 フィリピン研修

◇実施場所 (国内研修)岡山市(海外研修) フィリピンボホール島

◇実施期間 (開講式)2014年6月15日 (国内研修)6月15日～8月22日 (海外研修)8月23日～30日

◇派遣者

参加者：岡山県内大学生4名(岡山大学法学部3人、就実大学薬学部1人) 引率者：山崎希 AMDA本部職員 看護師



家屋再建作業を手伝う塾生

◇事業内容

「おかやま国際塾」とは、おかやま国際塾実行委員会が行う事業で、その委員会はAMDAと岡山大学教員と共同で運営されている。AMDAと岡山大学は2005年8月に国際社会貢献活動及び人材育成の推進を目的とし、連携協力に関する協定書を締結している。同協定がきっかけとなり、2011年からおかやま国際塾がスタートした。2011年にはモンゴル、2012年にはインドネシア、2013年はスリランカで現地研修が行われた。4回目となる2014年の海外研修は、2013年10月に大きな地震に見舞われたフィリピン・ボホール島で行われた。

2013年6月15日の開講式から8月23日の出発までの約2か月間は、国際塾生の4人が主体となり、フィリピン・ボホー

ル島の協力団体との調整、英語のプレゼンテーションや衛生教育の準備、ボホール島地震の被害の状況やフィリピンの歴史などについて勉強した。現地研修は8月23日から30日の8日間で終わった。おかもや国際塾4期生は、マニラ到着後、受け入れに協力してくださったフィリピン開発アカデミー表敬訪問を行い、翌日にはボホール島に到着。ボホール島では孤児院を訪問して子どもたちとの文化交流、ボホール州立大学を訪問して大学生とのディスカッションやプレゼンテーション、スポーツ交流などを実施。その他にも地震被災者のための家屋再建プログラムに参加したり、ホームステイなどを体験した。またマリボホック中央小学校では子どもたちを対象に衛生教育、文化交流として理科実験のデモンストレーションを行い、最終日には植林プログラムに参加し、充実した海外研修を終了させた。

さらに帰国後の11月12日には学生らが主体となって、海外研修の報告会を実施。貴重な体験を同世代の学生を対象に発表する場となった。

◇参加学生の声

「準備から報告会まで非常に充実した時間を過ごすことができた。これからの人生できっと役立つ経験だった。」

「実際に子どもたちの笑顔を見たら、つらいこともあったけど、最後までやり遂げてよかったと思った。確信したことは全力で取り組むと達成感が得られるということだ。」

「今後進路を選択していく際、岡山国際塾での活動が良い方向へ導いてくれると思う。貴重な経験を無駄にすることなく、一步一步着実に前に進んでいきます。」

「理想の自分と比べて、今の自分が持っていないもの、自分に足りないものを知ることができた。それを得るために一歩踏み出すことを大事にしたい。」

◇協力機関

岡山大学法学部、マリボホック町、ボホール州立大学、マリボホック中央小学校、フィリピン開発アカデミーほか

ASMP

AMDA Soul and Medicine Program
AMDA 医療と魂のプログラム

- ◇実施場所 モンゴル ウランバートル市
- ◇実施期間 2013年9月13日
- ◇派遣者 難波 妙 調整員
AMDA GPSP 支援局長

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
AMDA 派遣者および斉藤堯園 日蓮宗住職、ガンダン寺住職 30人、大本モンゴル2人、AMDA モンゴル支部医師 1人（計35人）

◇受益者数 30人

◇事業内容

モンゴル仏教総本山ガンダン寺においておこなわれる ASMP は今年で7回目となった。

ハルハ河戦争から75周年目の節目となる本年も日蓮宗様、宗教法人大本様にご参加いただき、ガンダン寺のご住職がたとともに、第二次世界大戦で尊い命を捧げたモンゴル、日本両国の犠牲者のご冥福を祈り、世界平和を祈願した。日蓮宗宗務総名代として昨年からお参加いただいている斉藤堯園ご住職は、日本が恒久平和を追求していく役割の大切さについて、大本モンゴル本部事務局長、アルタン ウルジ バトエルデネ様は、人と人がお互いに思い合う世界への希望をそれぞれ訴えた。

菅波代表は、モンゴルと日本の間において、人と人との友好関係がなお一層深まり、おたがいの文化を尊重しながら「相互扶助」の精神で平和構築の担い手になれると確信しているとのメッセージを寄せた。



ASMPの様子

◇受益者の声

ASMP がこれほど長く続いていることに感謝し、来年も是非続けてほしい
(ガンダン寺モンゴル仏教学校校長)

◇現地協力機関

モンゴル仏教総本山ガンダン寺、大本モンゴル、AMDA モンゴル

会議、セミナー他

■フィリピン台風30号復興支援会議～南海トラフ地震にそなえて～

- ◇実施場所 福山市
- ◇実施期間 2014年4月26日
- ◇主な参加者・団体
AMDA、福山市医師会、フィリピン領事館 総領事、福山市、福山市議会議員、レイテ医師、タクロバン福山交流支援センター、広島県教育委員会、広島県立福山誠之館高校、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院、岡山倉敷フィリピンサークル

◇参加者数 100人



会議の様子

◇事業内容

2014年4月26日、アムダと福山市医師会の共催で「フィリピン台風30号復興支援会議～南海トラフ地震にそなえて～」を福山市生涯学習プラザ まなびの館ロームを会場に開催した。これはAMDAが行っているフィリピン台風30号被災者のための復興支援事業の一環として開催し、当日は県内外から約100人が会場を訪れた。本会議の会場となった福山市は、台風で被災したレイテ島のタクロバン市と姉妹都市の提携をしており義捐金を被災地に送る等、支援活動を行っている。最後に今後起こりうる南海トラフ地震について、参加者を交えてディスカッションを実施。

会議では復興支援に携わる関係者からの活動報告のあと、ディスカッションの部分を設け、今後の協力体制の再確認を行った。

■学生フォーラム「ボランティアって楽しい！」



ディスカッションの様子

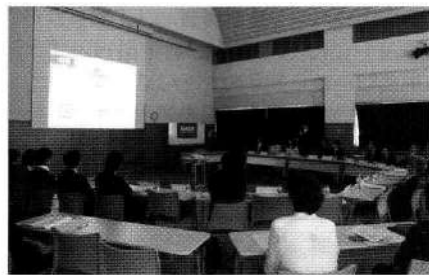
- ◇実施場所 クレド岡山8F 第2会議室
- ◇実施期間 2014年7月26日
- ◇主な参加者・団体 AMDA 高校生会、関西医科大学医学科 滝澤知佳氏、岡山県立和気閑谷高等学校、岡山県立高松農業高等学校、広島県立福山誠之館高等学校 生徒会
- ◇共催 AMDA、AMDA 高校生会
- ◇参加者数 50人

◇事業内容

「高校生だからこそできること」を、自分たちの言葉で発信して、同世代の高校生に共有し、その喜びを分かち合いたいという思いで、AMDA 高校生会が中心となって学生フォーラムを開催。県内を中心とした高校生のボランティア活動の発表のあと、学生同士でグループディスカッションを行

い、「高校生にできるボランティア」についてそれぞれ思いの視点で、意見発表し、共有することができた。

■第2回国際医療貢献フォーラム



会議の様子

- ◇実施場所 岡山国際交流センター
- ◇実施期間 2014年10月4日
- ◇主な参加者・団体 広島県立福山誠之館高校、国際医療勉強会 ILOHA、AMSA (アジア医学生連絡協議会)、AMDA 高校生会、岡山大学病院心臓血管外科教授 佐野俊二、川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科教授 高崎裕子、社会福祉法人恩賜財団済生会岡山県済生会支部長 岩本一寿、社会福祉法人旭川荘理事長 末光茂、厚生労働審議官 牛尾光宏、日本・ミャンマー医療人育成支援協会理事長 岡田茂、御津医師会前会長 森脇和久、歯科ネットワーク岡山から世界へ理事 高柴正悟、RNN (人道援助宗教NGOネットワーク) 事務局長 黒住宗道、岡山倉敷フィリピーノサークル代表 大山マージョリー、PRRM 農村再建運動、AMDA グループ代表 菅波茂、岡山県立大学保健福祉学部看護学科教授 二宮一枝、岡山大学大学院環境生命科学科准教授 頼藤貴志、岡山大学大学院社会文化科学研究科教授 黒神直純、広島県教育委員会事務局教育部教育改革推進課長 寺田拓真、岡山県県民生活部国際課課長 上野和也、岡山県保健福祉部医療推進課課長 則安 俊昭、
- ◇共催 岡山県、AMDA
- ◇参加者数 80人

◇事業内容
国際医療貢献に取り組む自治体、団体、企業等が一堂に会して各々の取組について発表し、意見交換、情報交換を行い、医療分野に留まらず様々な分野との協働に発展させ、国際貢献先進県・岡山の実現に向けて大きなきっかけとなるフォーラムとなった。第1回大会での結論となった「今後の人財育成の重要性」を第2回会議のメインテーマとし、「若者自身による活動」「医療機関による国際医療貢献—ローカル人財の育成」「民間組織による様々な活動と人材育成」「教育機関によるグローバル人材育成」「自治体外交—命につながる国際貢献」という5つのグループ分けを行いそれぞれの立場からの発表があった。さらに「国際保健の最新の動向」と題して厚生労働省の牛尾氏より講評を頂いた。今後は業界

を超えた国際医療貢献に非常に重要であることがのべられ、第3回国際医療貢献フォーラムの開催に向けた投げかけとなった。

■食糧と人道支援シンポジウム 「風評被害からの復興～起こりうる南海トラフ地震津波に向けて」



会議の様子

- ◇実施場所 岡山国際交流センター
- ◇実施期間 2014年12月6日
- ◇主な参加者・団体 福島県南相馬市役所、鹿島区認定農業者経営改善研究会、生活協同組合 おかやまコープ、AMDA 支援農家、前新庄村長ほか
- ◇参加者数 60人

◇事業内容
12月6日、岡山国際交流センター5階会議室を会場に「第2回食糧と人道支援シンポジウム 風評被害からの復興～起こりうる南海トラフ地震津波に向けて」を開催した。基調講演では福島県南相馬市から登壇があり、震災当時の様子や、現在、目の当たりにしている風評被害を含む数多くの問題について報告があった。続いて、風評被害に対するAMDAの活動紹介のほか、風評被害に対する福島の方々の率直な思いや、それに対するコメントなど参加者とのディスカッションが行われた。

■第2回被災地間相互交流公開フォーラム～南海トラフ地震に備えて～



会議の様子

- ◇実施場所 岡山国際交流センター
- ◇実施期間 2015年2月1日
- ◇主な参加団体
AMDA、南三陸さんさん商店街、おしかのれん街、高田大隅つどいの丘商店街、Team 南相馬、七の市商店街、国土交通省四国地方整備局港湾空港企画官、公益財団

法人都市化研究公室、高知県、須崎市、徳島県、美波町、総社市市長、丸亀市、笠岡市笠岡本通商店街、瀬戸健診クリニック、BERT、さくら診療所、ホウエツ病院

◇参加者数 100人

◇事業内容
2月1日、岡山国際交流センター8階イベントホールを会場に「第2回被災地間相互交流公開フォーラム～南海トラフ地震に備えて～」を開催した。
今後起こりうる「南海トラフ地震」に備えて、東日本大震災の被災地商店街の方々、また南海トラフ地震で被災が予想される地域の自治体の方々が一堂に会し、経験や知恵を共有し、将来に備えた具体的なディスカッションを行うことができた。

AMDAの海外支部が主体として実施している事業

■バングラデシュ ABCプロジェクト AMDA Bank Complex



マイクロクレジットの会合の様子

- ◇実施場所 バングラデシュ人民共和国ダッカ管区ムンシガンシユ県ガザリア地区
- ◇実施期間 1999年～継続中
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
AMDA バングラデシュ支部 事務スタッフ34人
- ◇事業内容

このプロジェクトは①AMDA 保健センター、②AMDA 職業訓練センター兼洪水避難所、③AMDA 地域学習センター、④小規模融資プログラムの4つの活動で構成されている。

AMDA 保健センターは日本政府の援助により2003年に設立され、土地なし農民や貧しい女性たちに低価格で保健サービスを提供している。受益者はおよそ2万人。センターには、パートタイムの医師が2人、研修を受けた助産師1人、検査技師1人、保健助手が3人いる。その他に、無料で地域の巡回診療を行う地域保健ワーカーが5人いる。

AMDA 職業訓練センターは、2002年に日本の外務省の支援により設立された。洪

水の際に避難できるように3階建てになっている。ここでは、コンピューター、大工、電工、洋裁、漁業・養鶏、コミュニティーナースの6つの研修プログラムを提供している。これまでに、土地なし農民や女性、退学した若者などおよそ1500人が訓練を受けている。(2014年現在)

AMDA地域学習センターは、職業訓練センターの建物を使って行われている。ここでは地域の持続発展に役立つ成人向けの生涯教育が行われており、地域の人びとおよそ1500人が参加している。

最後の小規模融資プログラムは、AMDA本部が提供した資本を元に1999年に始まった。このプログラムは、社会から疎外された女性が、小規模融資により現金収入を得られる活動をするのを促進している。現在、ガザリア地区の25村で活動が行われており、1グループ5人からなる500グループ(計2500人)が存在している。AMDAはプログラムの円滑な進行のために89か所のセンターを運営しており、1センターあたり5~10グループが所属している。グループには、グループ長と副グループ長がおり、その中から、センター長と副センター長が選出されている。

◇現地協力機関

ユニセフ(国際連合児童基金) バングラデシュ事務所

■ネパール東部ダマックにおける医療支援事業



AMDA ダマック病院

◇実施場所 ネパールメチ県ジャパ郡ダマック市

◇実施期間 1992年~継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA ネパール支部

◇診療科 一般科、外科、産婦人科、歯科、眼科、放射線科

◇事業内容

AMDA ネパールを実施主体として、1992年からメチ県ジャパ郡ダマックでブータン難民と地元住民の双方を医療支援対象とした事業を行っている。2014年度の外来患者数は、2万人以上。年間分娩数は4,000件を超える。ダマックのAMDA病院がブータン難民と地元住民のリファール病院(上位紹介病院)として機能して

いる。1995年からは国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の委託事業となっている。現在事業は母子保健やHIV/ 性感染症予防事業、難民キャンプ内のヘルスケア事業、人材育成など多分野にわたる。

◇現地協力機関 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

■ネパール子ども病院事業

(正式名称: シッダールタ母と子の病院)



シッダールタ母と子の病院
(Siddhartha Children and Women Hospital)

◇実施場所 ネパール

◇実施期間 1998年~継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 AMDA ネパール支部

◇診療科

小児科、新生児科、産婦人科、女性内科

◇病床数:

100床(小児科、新生児科、産婦人科)

◇スタッフ数 175名(医師19名、看護師62名、検査スタッフ12名、薬剤師18名、事務スタッフ16名、ヘルパー28名、ガードマン20名)

◇事業内容

1998年11月、阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの支援者の方々の協力により設立された首都以外で唯一の母子専門病院。設計については安藤忠雄建築事務所がボランティアで協力。ネパール南西部タライ平野に位置するルパンデヒ郡プトワル市に設置。高い医療サービス提供が定評で、地元からだけでなく100km以上離れた地域から訪れる患者もいる。毎月3,000人以上の外来患者に対応し、一日の分娩数は6人以上となっている。(2014年度)

2011年8月より新たな周産期病棟(2階建)の建設を開始し、2012年11月に完成した。新病棟では、陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、新生児集中治療室などを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理できるよう配慮している。

AMDA 高校生会 2014 年度の活動

県内の高校生を中心に、約 30 人がほぼ毎月 1 回、AMDA 本部事務所に集まり活動についての計画や打ち合わせ、学習会を行った。今年度も東日本大震災復興支援やフィリピン台風 30 号の復興支援などに関して、高校生として自分たちができることをテーマに活動を進めた。

高校生フォーラム

～ボランティアって楽しい～開催



グループに分かれてディスカッション

2014 年 7 月 26 日、AMDA 高校生会を中心となって学生を対象としたフォーラムを開催した。会場には学生を中心として約

50 人の来場者があり、13 時半のスタートから 16 時半まで行われたフォーラムは熱気あふれるものとなった。学校を超えて、想いを持つ学生たちが、これまでに東日本の被災地に向けた支援やフィリピン台風の被災地に向けた支援活動などをどのように行ってきたか、どのような思いをもって取り組んできたかなどが発表された。さらに、参加者がグループに分かれて「高校生にできるボランティアと国際貢献」についてディスカッションを行った。初対面の学生が多いにもかかわらず、積極的な意見が飛び出し、それぞれの思いを共有しながらグループごとに意見をまとめて、今できることとして、知ること、SNS などを通じて伝えること、身近な人に伝えること、今はしっかり蓄えること、などの意見や、より具体的なエコキャップの回収などのアイデアも出る有意義な会議となった。

AMDA 復興支援 F-1 グルメ大会 ボランティア参加

岡山から復興グルメ F-1 大会の開催に合わせボランティアバスが運行されている。2014 年度は、七ヶ浜（宮城県）、陸前高田（岩手県）、相馬（福島県）の 3 大会に対してボランティアバスに参加し、高校生会メンバーも一般の参加者と共に現地での大会準備や運営のボランティアを行った。東北の方と一緒にイベントを成功させることで大きな絆が生まれた。さらに、期間中はそ

れぞれの被災地で、震災当時の様子に関する話を地元の方から聞く機会があり、さらに現在復興に向けて取り組む地元の方々との交流を通じて、高校生としてこれから東北に対して出来る支援などを改めて考える良い機会となった。

主な活動

- 7 月 26 日高校生フォーラム開催
- 8 月 4 日、5 日地域防災ボランティアリーダー養成研修講師登壇
- 10 月 4 日第 2 回国際医療貢献フォーラム登壇
- 11 月 3 日岡山大学鹿田祭参加
- 2015 年 3 月 14 日備前焼きチャリティー販売ボランティア
- その他募金活動参加など

AMDA 団体概要

所在地 〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町 3-31-1

設立年月日 1984 年 8 月

国連経済社会理事会「総合協議資格」取得 2006 年

認定 NPO 法人に認証 2013 年 5 月 8 日付

特定非営利活動法人 AMDA 理事長 成澤 貴子

AMDA グループ構成団体

特定非営利活動法人アムダ：AMDA

AMDA インターナショナル（任意団体）

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構

特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター

アムダ国際福祉事業団

AMDA 兵庫

海外活動：

緊急医療支援、復興支援、合同医療ミッション、スポーツ親善交流、ASMP、セミナー開催等

活動国：日本、フィリピン、インド、モンゴル、スリランカ、カンボジア、バングラデシュ、ネパール、インドネシア 他

国内活動：

出張講演、大学講義受託、活動報告会・セミナー開催、

国内防災訓練対応、高校生会、イベント参加

ボランティア地域組織 2 支部・7 クラブの各地域での活動

AMDA 支部：沖縄支部、神奈川支部

AMDA クラブ：大槌、鎌倉、高知、玉野、福山、竹原、

神女（神戸女子大学）

スタッフ：常勤 12 人 非常勤 9 人 嘱託 5 人

会員数：940 人

以上 2015 年 7 月 1 日現在

認定 特定非営利活動法人 アムダ役員

理事長	成澤 貴子 認定特定非営利活動法人アムダ事務局長
理事	大土 吉子 元岡山県生活環境政策スタッフ
理事	菅波 知子 医師
理事	中西 泉 医師 医療法人社団慶泉会町谷原病院 理事長
理事	難波 妙 認定特定非営利活動法人アムダ国際部部长
理事	野島 治 元倉敷市教育委員会 嘱託啓発指導員・小学校校長
監事	渡丸 弘之 公認会計士

以上 2015 年 7 月 1 日現在

※多くのボランティアの皆様を支えられて様々な国内の活動を実施することができました。心より感謝申し上げます。

国内の動き

■公開セミナー

岡山県立大学大学院「災害医療援助・持論」公開セミナー 8月

■大学講義

岡山大学、岡山県立大学大学院、福山平成大学（15限）、相生市立看護専門学校（10限）、神戸女子大学（15限）

■出張講演

小・中・高校、教育委員会、企業、官公庁、各種団体にて講演 計42件

■国内連携

・茅ヶ崎ロータリークラブ・パキスタンNRS P（パキスタン家庭健康教育プログラム）	6月24日
・総社市・丸亀市・AMDA 災害時応援協定締結	8月30日
・AMDA・高知県 大規模災害時の支援に関する協定締結	12月26日
・高知市 大規模災害時における支援に関する協定	2月2日
・須崎市 大規模災害時における支援に関する協定	2月2日
・黒潮町 大規模災害時における支援に関する協定	2月2日
・徳島県・阿波銀行・AMDA 南海トラフ巨大地震等における医療救護活動に関する協定	2月3日
・美波町 大規模災害時の支援に関する協定	2月3日
・株式会社ザグザグ 大規模災害発生時の医薬品を中心とした支援物資に関する連携	3月14日

■国外連携

・ベトナム国防省管轄175病院	1月12日
・バリアブントウ大学（ベトナム）	1月13日
・医療NGO台湾ルーツ	3月17日

■海外活動地視察教育プログラム

・おかやま国際塾 フィリピン研修 8月

■海外講師招聘

・ネパール・トリブバン大学医学部付属病院助教授 小児科医ラミシュワル・ポカレル氏 12月

■研修受け入れ

・タンバロ氏（フィリピン研修生） AMDA フードプログラム	6月～11月
・マルティリツ氏（フィリピン研修生） AMDA フードプログラム	6月～11月

■主な主催事業

・復興グルメF-1大会 ボランティアバス（第6回～第8回）	4月、7月、11月
・第2回災害鍼灸チーム育成プログラム	9月
・第2回国際医療貢献フォーラム	10月
・AMDA フードプログラム野土路農場収穫祭	10月
・第2回 食糧と人道支援シンポジウム「風評被害からの復興」	12月
・第2回被災地間相互交流公開フォーラム～南海トラフ地震に備えて～	2月

■主なイベント参加

・コープフェスタ2014	9月
・備芸会展 アムダパネル展	10月
・チャリティー洋蘭展	1月
・ワンワールドフェスティバル（大阪）	2月
・Pray for 東日本 がんばろう日本 from bizen チャリティー備前焼販売	3月

■AMDA 高校生会

・NHK ラジオ おかラジ 高校生会出演	4月
・高校生フォーラム	7月
・高校生地域防災ボランティアリーダー養成研修	8月
・岡山大学医学部学園祭参加	11月

平成 26 年度

活動計算書

平成 26 年 4 月 1 日から 平成 27 年 3 月 31 日まで

科目	金額 (単位:円)		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	455,000		
医師会員受取会費	1,365,000		
一般会員受取会費	4,990,000		
学生会員受取会費	45,000		
法人会員受取会費	1,140,000		
賛助会員受取会費	674,000	8,669,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	65,848,045	65,848,045	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	662,378		
受取地方公共団体補助金	600,000	1,262,378	
4. 事業収益			
事業収益			
広報事業	111,100		
謝金	140,600		
雑収益	126,433		
事業助成金収入	350,000		
業務委託収益	2,369,000	3,097,133	
5. その他収益			
受取利息	31,875		
為替差益	1,144,313		
雑収益	1,100	1,177,288	
経常収益計			80,053,844
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	32,234,826		
法定福利費	4,637,286		
福利厚生費	75,299		
派遣費	9,297,747		
人件費計	46,245,158		
(2) その他経費			
業務委託費	16,418,506		
諸謝金	297,288		
印刷製本費	3,046,501		
会議費	1,355,270		
旅費交通費	27,966,262		
車両維持費	73,030		
通信運搬費	4,779,061		
消耗品費	4,009,801		
渉外費	1,077,780		
修繕費	125,141		
水道光熱費	416,785		
賃借料	5,632,820		
減価償却費	382,050		
保険料	623,243		
諸会費	36,000		
租税公課	183,230		
研修費	124,323		
広告宣伝費	112,015		
支払手数料	330,697		
支払助成金	12,790,000		
支払義援金	330,555		
新聞図書費	290		
燃料費	513,860		
医療消耗品費	1,812,515		
栄養給食費	2,118,509		
農業関連費	140,902		
雑費	205,251		
その他経費計	84,901,685		
事業費計		131,146,843	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	8,267,771		
法定福利費	1,314,755		
福利厚生費	119,870		
人件費計	9,702,396		
(2) その他経費			
印刷製本費	169,624		
会議費	59,153		
旅費交通費	386,914		
燃料費	45,634		
通信運搬費	1,350,093		
消耗品費	1,423,722		
渉外費	335,824		
修繕費	45,120		
水道光熱費	281,960		
賃借料	3,387,490		
減価償却費	318,432		
保険料	66,010		
諸会費	40,500		
租税公課	114,957		
支払手数料	589,005		
業務委託費	1,231,200		
広告宣伝費	6,480		
新聞図書費	48,913		
雑費	228,791		
その他経費計	10,129,822		
管理費計		19,832,218	
経常費用計			150,979,061
当期経常増減額			△ 70,925,217
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			△ 70,925,217
当期正味財産増減額			△ 70,925,217
前期繰越正味財産額			470,868,787
次期繰越正味財産額			399,943,570

※今年度はその他の事業を実施していません。

貸借対照表

平成 27 年 3 月 31 日現在

科目	金額 (単位:円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	236,290,138		
棚卸資産	2,086,276		
前払金	2,586,370		
仮払金	5,148,622		
流動資産合計		246,111,406	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	5,971,662		
什器備品	3,360,358		
建物附属設備	719,250		
減価償却累計額	△ 3,024,966		
有形固定資産計		7,026,304	
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	26,775		
無形固定資産計		26,775	
(3) 投資その他の資産			
敷金	276,878		
東日本震災特定預金	111,887,975		
東日本奨学特定預金	4,859,785		
プロジェクト準備金	35,747,440		
投資その他の資産計		152,772,078	
固定資産合計		159,825,157	
資産合計			405,936,563
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,709,311		
前受金	90,000		
預り金	193,682		
流動負債合計		5,992,993	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			5,992,993
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		470,868,787	
当期正味財産増減額		△ 70,925,217	
正味財産合計			399,943,570
負債及び正味財産合計			405,936,563

財産目録

平成 27 年 3 月 31 日現在

科目	金額 (単位:円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	4,317,651		
普通預金	220,508,207		
定期預金	10,000,000		
外貨預金	1,464,580		
棚卸資産	2,086,276		
前払金			
図書製本費	2,225,870		
賃借料	360,500		
仮払金	5,148,622		
流動資産合計		246,111,406	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	5,971,662		
什器備品	3,360,358		
建物附属設備	719,250		
減価償却累計額	△ 3,024,966		
有形固定資産計		7,026,304	
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	26,775		
無形固定資産計		26,775	
(3) 投資その他の資産			
敷金	276,878		
東日本震災特定預金	111,887,975		
東日本奨学特定預金	4,859,785		
プロジェクト準備金	35,747,440		
投資その他の資産計		152,772,078	
固定資産合計		159,825,157	
資産合計			405,936,563
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
通信運搬費	250,784		
給与及び法定福利費、派遣費	4,610,137		
支払手数料	4,428		
旅費交通費	11,600		
業務委託費	804,000		
消耗品費	28,362		
前受金	90,000		
預り金			
源泉所得税、労働保険	93,682		
パキスタンモバイルクリニック活動費	100,000		
流動負債合計		5,992,993	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			5,992,993
正味財産			399,943,570

上記決算報告書は、平成 27 年 5 月 27 日に監事の監査を受け承認されたものです。

1. 重要な会計方針
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2011年11月20日NPO法人会計基準協議会）に基づいています。
 (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 最終在庫原価法による原価法により評価を行っています。
 (2) 固定資産の減価償却の方法
 有形固定資産については原価法による定額法により減価償却を行っています。無形固定資産については直線法による定額法により減価償却を行っています。
 (3) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別利益の状況

科 目	低所得地域等における 社会福祉事業	緊急人道支援事業	児童福祉事業 (東日本支援事業)	平価販売モノの開発と 運賃に関する事業	各種会議、講演会、 講座等の企画運営事業	各種調査研究 教育、研修事業	情報誌並びに外部的 広報誌及び書籍の刊行	有価証券及び有価証券 の運用に関する事業	事業部門計	管理部門計	合計
I 経常収益											
1. 受取会費	2,504,863	15,623,866	6,428,824	319,467	0	2,500	0	273,396	27,125,430	38,722,615	65,848,045
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医師会受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法人会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 受取寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益	0	91,740	33,150	300,000	70,000	30,243	121,100	31,900	378,133	0	378,133
事業助成金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業務委託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. その他収益	△ 70,791	△ 9,691	0	198,095	0	△ 35,069	0	△ 888	23,617	8,258	31,875
為替差益	△ 70,791	△ 9,691	0	198,095	0	△ 35,069	0	△ 888	81,656	1,062,657	1,144,313
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,100	1,100
経常収益計	2,434,072	16,107,148	6,797,041	817,562	70,000	2,416,674	121,100	704,408	31,590,214	48,463,630	80,053,844
II 経常費用											
1. 事業費及び管理費											
(1) 人件費	1,956,800	11,200,242	2,361,464	0	0	0	0	0	16,418,506	1,231,200	17,649,706
諸謝金	11,137	174,781	0	0	0	66,822	0	44,548	297,288	0	297,288
印刷製本費	2,870	102,924	889,067	0	659,430	26,244	1,362,294	3,672	3,046,501	169,624	3,216,125
会議費	107,319	129,828	173,287	61,654	762,566	40,301	80,315	3,072	1,414,423	59,153	1,473,576
旅費交通費	2,909,950	5,723,121	5,877,739	2,451,916	3,278,304	5,936,170	0	1,789,082	27,966,262	386,914	28,353,176
通信運搬費	0	0	73,030	0	0	0	0	0	73,030	0	73,030
車両運搬費	168,487	993,877	1,488,553	25,331	98,410	749,398	1,071,569	181,436	4,779,061	1,350,093	6,129,154
消耗品費	432,287	2,100,968	227,059	305,060	466,758	395,550	82,119	82,119	4,009,801	1,423,722	5,433,523
修繕費	84,973	504,815	31,860	38,014	0	110,062	0	80,613	1,077,780	335,824	1,413,604
水道光熱費	59,786	0	323,996	0	0	8,308	0	0	125,141	45,120	170,261
賃借料	218,931	101,640	3,754,604	72,223	279,300	1,050,122	0	156,000	416,785	281,960	698,745
減価償却費	0	0	382,050	0	0	0	0	0	5,632,820	3,387,490	9,020,310
保険料	12,000	50,609	476,171	243	0	22,070	0	0	382,050	318,432	700,482
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	623,243	66,010	689,253
租税公課	0	450	144,700	0	0	0	0	0	36,000	40,500	76,500
研修費	0	65,067	0	0	0	34,080	0	4,000	183,230	114,957	298,187
広告宣伝費	32,419	0	79,596	0	7,040	41,716	0	0	124,323	124,323	248,646
支払手数料	14,160	58,100	122,908	26,756	80,236	8,976	756	756	112,015	6,480	118,495
支払助成金	7,750,000	0	0	5,040,000	0	0	0	0	330,697	589,005	919,702
支払義援金	0	330,555	0	0	0	0	0	0	12,790,000	0	12,790,000
新聞図書費	0	0	150	0	0	140	0	0	330,555	0	330,555
燃料費	8,738	321,008	51,806	0	0	123,413	0	8,895	513,860	45,634	559,494
医療消耗品費	783,519	904,891	0	124,105	0	0	0	0	1,812,515	0	1,812,515
栄養給食費	0	846,677	461,513	201,741	0	543,101	0	65,477	2,118,509	0	2,118,509
農業関連費	0	0	0	0	0	65,261	0	75,641	140,902	0	140,902
雑費	112,941	6,108	76,200	0	0	10,002	0	205,251	228,791	228,791	457,542
その他経費計	14,816,556	23,617,661	17,189,790	3,307,043	5,632,044	9,264,739	2,434,619	3,581,184	84,901,685	10,129,822	95,031,507
経常費用計	15,013,774	40,782,643	30,654,221	3,520,855	5,632,044	18,298,033	2,434,619	9,752,605	131,146,843	19,832,218	150,979,061
当期経常利益(損失)	△ 12,579,702	△ 24,675,495	△ 23,857,180	△ 2,703,293	△ 5,562,044	△ 15,881,359	△ 2,313,519	△ 9,048,197	△ 99,556,629	28,631,412	△ 70,925,217
前期繰越利益(損失)	11,991,913	15,377,460	135,745,155	7,795,625	△ 2,703,293	4,859,785	0	0	170,910,529	299,958,624	470,868,787
次期繰越利益(損失)	△ 587,789	△ 9,298,035	111,887,975	△ 2,703,293	△ 5,562,044	△ 15,881,359	△ 2,313,519	△ 9,048,197	71,353,524	328,590,046	399,943,570

3.

用途等が制約された寄附金等の内訳
 用途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。
 当法人の正味財産は399,943,570円ですが、そのうち116,747,760円は用途が特定されています。
 したがって使途が制約されていない正味財産は283,195,810円です。

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
東日本復興事業	135,745,155	6,797,041	30,654,221	111,887,975	東日本復興支援事業に使用しました。
東日本奨学金事業	7,795,625	2,122,209	5,058,049	4,859,785	東日本で医療従事者を目指す学生の奨学金支援事業に使用しました。
合計	143,540,780	8,919,250	35,712,270	116,747,760	

(単位：円)

4

固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産(器具備品)						
建物	5,971,662	0	0	5,971,662	679,276	5,292,386
工具・器具・備品	3,360,358	0	0	3,360,358	2,116,792	1,243,566
建物附属設備	719,250	0	0	719,250	228,898	490,352
無形固定資産	535,500	0	0	535,500	508,725	26,775
投資その他の資産						
敷金	178,000	216,878	118,000	276,878	-	276,878
東日本震災特定預金	135,745,155	6,797,041	30,654,221	111,887,975	-	111,887,975
東日本奨学金特定預金	7,795,625	2,122,209	5,058,049	4,859,785	-	4,859,785
プロジェクト用特定資産	35,747,440	0	0	35,747,440	-	35,747,440
合計	190,052,990	9,136,128	35,830,270	163,358,848	3,533,691	159,825,157

(単位：円)

5

借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
役員借入金	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

(単位：円)

6

役員及びその近親者との取引の内容
 役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
受取寄附金	65,848,045	2,071,650
賃借料(管理費)	3,387,490	2,887,500
活動計算書計(貸借対照表)	69,235,535	4,959,150
前払金	2,586,370	262,500
貸借対照表計	2,586,370	262,500

(単位：円)

7

事業費と管理費の振分方法
 事業費と管理費に共通する経費のうち、給料手当及び法定福利費については従事割合に基づいて振分けています。
 賃借料、水道光熱費、通信運搬費については、管理費の1/4を東日本事業へ振分計上しています。

アムダは公的資金に頼らずに皆様から
 のご寄付で活動を継続しております。
 改めて厚く御礼申し上げます。



フィリピン台風 23 号被災者に対する支援活動 巡回診療の様子

平成 27 年度も、東日本大震災復興支援事業をはじめとする様々な活動を実施しています。

皆様の温かいご支援を引き続きよろしく申し上げます。